

第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

これも今は昔、比叡ひゑの山に児ちありけり。僧そうたち、宵よひのつれづれに、「いざ、かいもちひせん」と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。さりとして、しいださんを待ちて寝ねざらんもわりなあと思ひて、かたがたに寄りて、寝たるよしにて、いでくるを待ちけるに、すでにしいだしたるさまにて、ひしめきあひたり。

5

この児、定めておどろかさんずらんと、待ちあたるに、僧の、「もの申しさぶらはん。おどろかせたまへ」と言ふを、うれしと思へども、ただ一度にいらへんも、待ちけるかともぞ思ふとて、いまひと声呼ばれていらへんと、念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。幼き人は寝入りたまひにけり」と言ふ声のしければ、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食②ひに食ふ音のしければ、すべなくて、無期むごの後に、「えい」といらへたりければ、僧たち笑ふことかぎりなし。

10

（『宇治拾遺物語』）

〔現代語訳〕

これも今では昔のこと、比叡山ひゑいざんの寺に一人の児がいた。僧たちが、宵の暇ひまにまかせて、「さあ、ぼたもちを作ろう」と言ったのを、この児は、心に期待して聞いていた。そうはいっても、できあがるのを待つて寝ないでいるのも具合が悪いだろうと思つて、（部屋ふの）片すみに寄つて、寝いているふりをして、できあがるのを待つていたところ、もうできあがつた様子で、ひしめき合つてさわいでいる。

5

この児は、きつと起こそうとするだろうと、待つていたところ、僧が、

「A」と言うのを、うれしいとは思つたが、たった一度（呼ばれた）

だけで返事をするのも、待つていたのかと思うかもしれないと思つて、もう一度呼ばれてから返事をしようと、がまんをして寝ているふりをして、いるうちに、B。幼い人は寝入いつておしまいになつた」と言う声がしたので、ああ、困つたと思つて、もう一度起こしてくれよ、と思ひながら寝たふりをして聞いていると、むしゃむしゃと、しきりに食べる音がしたので、どうにもがまんができなくなつて、かなり時間がたつてから、「はい」と返事をしたので、僧たちはとめどもなく笑つた。

15

問一 線a～eの主語を古文中からそれぞれ書き抜きなさい。

a	~~~~~	b	~~~~~	c	~~~~~
d	~~~~~	e	~~~~~		~~~~~

問二 現代語訳のA・Bにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 何か言つて、おどろかせてください

イ おや、何か言つたようだ、大声を出しておどろかせてやろう

ウ もしもし、目をさましてくださいませ

エ 寝てばかりいるのはけしからんことだ、きつくしかつてやろう

A

~~~~~



## 練習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

さて物語は、もののあはれを知るを、むねとはしたるに、そのすぢに  
いたりては、儒仏の教へにはそむける事もおほきぞかし。そはまづ人の  
情の、物に感ずる事には、善悪邪正さまさまある中に、ことわりにたが  
へる事には、感ずまじきわざなれども、情は、我ながらわが心にもまか  
せぬことありて、おのづからしのびがたきふし有りて、感ずることある  
ものなり。

(本居宣長『源氏物語玉の小櫛』)

〔現代語訳〕

さて、物語というものは、もののあわれを知ること、主要な事から  
とはしているのであるが、そのあらすじということになると、儒教や仏  
教の教えに反することも多いものであるよ。そのわけはまず人間の心が、  
(何かの)物事に感じる場合には、善悪邪正いろいろある中で、道理に反す  
ることには、感動するはずはないわけであるが、心というものは、  
ところがあつて、(どうかすると)自分でも抑えがたいものがあつて、(道  
理に反することにも)感動することがあるものだからである。

問一 線a、b、cをそれぞれ現代かなづかいに直して書きなさい。

a b c

問二 線①「むね」とは何ですか。現代語訳中から六字で書き抜きなさい。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

問三 線②「すぢ」とは何ですか。現代語訳中から書き抜きなさい。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

問四 線③「ぞかし」に込められている筆者の心情を述べたものとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア それほど重要ではないことを読者に示そうとしている。  
イ とても意外だということを読者に示そうとしている。  
ウ どうすればよいかと読者に問いかけている。  
エ 特に強調して読者に示そうとしている。

|  |
|--|
|  |
|--|

問五 線④「我ながらわが心にもまかせぬ」の現代語訳が□に

あてはまります。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 何でも自分の思いのままになる  
イ 自分でも自分の思うとおりにいかない  
ウ 自分の思うとおりになるはずがない  
エ 自分の思うとおりになりそう

|  |
|--|
|  |
|--|

問六 線⑤「道理」は、古文ではどう表されていますか。古文中から四字で書き抜きなさい。

問七

Aさんたちは、古文と現代語訳を読んで、次のような話し合いを行いました。これを読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |

Aさん この古文は、物語において大切にされているのはⅠだと述べるところから始まっているね。

Bさん その後、物語の「すぢ」に、Ⅱ内容のものが多い理由を述べて、論を展開しているね。

Cさん 筆者は「ことわりにたがへる事」つまりⅢに感動するはずがないと述べているよ。でもその一方で、現代語訳を見ると、「心というものは、Ⅳところ」があるとも考えているようだよ。

Aさん 「おのづからしのびがたきふし有りて」とあるように、人にはⅣがあるということかなあ。

Bさん そうだね。古文の要旨をまとめると、筆者はⅤと主張しているんだと思う。

(1) Ⅰ～Ⅲにあてはまる言葉を、現代語訳中から、Ⅰは十一字、Ⅱは十二字、Ⅲは八字でそれぞれ書き抜きなさい。

|   |   |
|---|---|
| Ⅱ | Ⅰ |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |
|   |   |

(2)

Ⅳにあてはまる内容として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

|   |
|---|
| Ⅲ |
|   |
|   |
|   |
|   |
|   |
|   |

ア 理屈だけでは割り切れない、どうしようもない気持ち

イ つつみかくしておきたい自分だけの物語

ウ どんなことであっても、道理に反するものには感動しない理性

エ どんな気持ちであっても、理屈による説明を可能にする論理

(3)

Ⅴにあてはまる内容として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人間には道理に反することを好む傾向があるので、そうした傾向を正すためにも、儒仏の教えにもとづいた物語を読まなければならない

イ 物語のあらすじが儒仏の教えに反することがないように、物語の作者は儒仏の教えについてふだんから学習しておくことが大切である

ウ 物語というものに儒仏の教えに反する面が多いのは、道理に反することだとわかっていても、人間の心は感動することがあるからである

エ 物にふれて起こる感動を抑制するものが、人間の理性や意志というものであり、物語にもそれを主題にした作品が多く見受けられる